



東アジア共同体評議会会報

The Council on East Asian Community Bulletin, Fall 2012 Vol.9 No.4

NEAT北京総会開催さる

ASEAN + 3 首脳会議の傘下に関係13カ国のシンクタンクを糾合した「東アジア研究所連合 (NEAT)」は、その第17回国別代表者会議 (CCM) と第10回年次総会を、8月26～28日に北京において中国外交学院の主催により開催した。

ASEAN + 3 の13ヶ国の研究所から47名の関係者が出席したが、日本からは、団長の平林博当評議会常任副議長のほかに、団員として石垣泰司当評議会副議長、岡崎健二政策研究大学院大学教授、坂本正弘日本国際フォーラム客員上席研究員、進藤榮一筑波大学大学院名誉教授、羽場久美子青山学院大学教授の6名および事務局より菊池誉名、高畑洋平の2名の計8名が参加した。

CCMおよび年次総会では、過去一年間のNEATの政策研究活動を代表する「NEAT今後の10年」(中国主催)、「防災協力」(日本主催)、「文化交流」(韓国主催)、「包括的成長」(シンガポール・イン



NEAT北京総会のもよう
ドネシア共催)の4つの作業部会 (WG) の研究成果が、つぎのとおり報告された。

「NEAT今後の10年」については、WGを代表してQIN Yaqing中国外交学院常任副学長より、「NEATは、APT発展のための政策立案者として、特に政治、安全保障分野でのトラック1 (ASEAN + 3 高級実務者会合) との連携を強化していくべき」との提言案が、「防災協力」については、WGを代表してわが国の岡崎健二教授より、「今後東アジアでは早期警報システムの改

善、災害時避難活動の促進、防災地域協力の拠点設置が必要になる」との提言案が、「文化交流」については、WGを代表して韓国のCHAE Suhong忠北大学校教授より、「東アジアにおける文化交流の中心となる『東アジア文化アーカイブス』の設立を提案したい」との提言案が、「包括的成長」については、WGを代表してシンガポールのJohn WONGシンガポール国立大学東アジア研究所元所長より、「これからの成長は、GDPの増大ではなく、生活の質の向上を目指す必要がある」との提言案が、それぞれ提出され、CCMおよび年次総会の審議を経て、最終的にASEAN + 3 首脳会議に提出される「NEAT政策提言メモランダム」としてとりまとめられた。

最後に、来年度のNEAT年次総会・CCMはマレーシアで開催されることが採択された。

東アジア共通法

東アジア地域統合の進展に伴い、東アジア共通法の創造的整備が求められている。6月22日に開催された当評議会第52回政策本会議では、一橋大学大学院法学研究科の松本恒雄教授(写真中央)を報告者に迎え、同大学院が2007年より本年にかけて中国人民大学法学院、釜山大学校法学専門大学院と共同で実施した研究事業「東アジアにおける法の継受と創造：東アジア共通法の基盤形成に向けて」について、つ



ぎのような報告を受けた。

中世から近世にかけてのヨーロッパでローマ法が果たしていた共通法 (jus commune) のようなものが念頭にある。日中韓には、西洋法の継受に加え、さらに過去には、中国の律令制度を日韓が継受したという共通の経験もある。日中韓の法律の共通部分を掘り起こすとともに、それに新たなものを付け加えて、共通法の基盤形成を行おうという研究だ。

日中韓サミット

7月20日に開催された当評議会第53回政策本会議は、さる5月13～14日に北京で開催された第5回日中韓サミットについて、同サミットに陪席した山野内勲二外務省アジア大洋州局参事官(写真中央)より、次のような報告を受けた。

日中韓3カ国は、二国間同士では、それぞれセンシティブな問題を抱えて

いるが、3カ国が一同に会するサミットの間では、そうした問題をいったん脇において、協力可能な点に焦点をあてたポジティブな議論を行っている。

日中韓サミットが開催された5月14日に東京で世界ウイグル会議が開催され、中国側が強い反応を示していたが、そのような中でも、今回のサミットでも、日中韓投資協定が署名され、日中韓FTA交渉の年内開始が同意された。FTAは経済的な側面だけでなく、政治的な側面でも象徴的な重要性をもつものであるため、この成果は大きい。



百家争鳴から

当評議会のホームページ (<http://www.ceac.jp>) 上の政策掲示板「百家争鳴」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

行き詰まった虚業金融

ジャーナリスト 田村 秀男

LIBOR (ロンドン銀行間取引金利) 不正操作事件は、壮大な現代虚業金融の行き詰まりを象徴している。この耳慣れない金融用語は、世界の標準金利が不正操作されていたことを白日の下に曝した。日本円の基準金利はTIBOR (東京銀行間取引金利) と呼ばれるが、円のLIBORはTIBORと連動している。いずれも銀行業界団体が自己申告する金利の平均値なので、談合すればどうでも動かせる。グローバル金融全盛の現代では、デリバティブ(金融派生商品)の契約規模は約650兆ドルに上るが、このうち500兆ドル以上が金利関連だという。円換算すると4京(兆の1万倍)

円に上る。地球上で1万円札にして積み上げると月を通り越してしまう。容疑のように大手銀行複数が談合すれば、操作は完璧だ。金利が急激に変動すれば、巨額損失を出す大手金融機関が続出して金融恐慌につながると思われるので、容疑のように中央銀行のイングランド銀行幹部が不正申告を教唆する事態もありうる。「監視」どころではない。そこには、神の手ではなく、強欲な人の手による操作が入り込んでおり、それを防ぐ決め手がないとしたら、現代金融システムは崩壊せざるをえなくなる。事件の深淵はあまりにも深い。(2012年8月2日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- 8/6 「ユーゴミサイル輸出と『平和利用』」(鈴木一人)
- 7/23 「野田首相はオスプレイに乗って尖閣諸島へ飛べ」(高畑昭男)
- 7/14 「アジアにおけるヨーロッパの役割」(河村洋)
- 6/30 「日韓防衛協力強化は必然の流れ」(高峰康修)

- 6/26 「中央銀行への過大な期待は禁物」(山下英次)
- 6/14 「大飯原発再稼働の判断について」(鈴木馨祐)
- 6/10 「強まりつつある日米豪印間の安全保障ネットワーク」(石垣泰司)
- 6/1 「『外交青書』と韓国の抗議」(櫻田淳)

CEAC活動日誌 (6月-8月)

- ◇6月10日、8月10日『メルマガ東アジア共同体評議会』発行
- ◇6月18日第8回監査役会
- ◇6月22日第8回運営準備会議
- ◇6月22日第14回運営本会議
- ◇6月22日第52回政策本会議(松本恒雄一橋大学大学院教授他15名)
- ◇6月28日NEAT「包括的成長」WG(シンガポール)(渡邊頼純有識者議員)
- ◇7月6日NEAT「今後の10年」WG(北京)(石垣泰司副議長)
- ◇7月7日NEAT「文化交流」WG(ソウル)(首藤もと子有識者議員)
- ◇7月10日CEAC E-Letter発行
- ◇7月13日NEAT「防災協力」WG国内会合(岡崎健二有識者議員他8名)
- ◇7月20日第53回政策本会議(山野内勘二外務省アジア大洋州局参事官他17名)
- ◇7月26-27日NEAT「防災協力」WG国際会合(岡崎有識者議員他18名)
- ◇8月15-17日第10回EAF年次総会(ネピドー)(石垣副議長他4名出席)
- ◇8月26-28日第10回NEAT年次総会・第17回国別代表者会議(北京)(平林博常任副議長他7名出席)

■新規役員等の紹介(6-8月)

【参与】

加藤重治(文部科学省国際統括官)

【顧問】

田中明彦(東京大学教授)

【副会長】

本郷健太(たちばな出版代表取締役)

EAFネピドー総会開催さる

さる8月15-17日、ミャンマーの新首都ネピドーにおいて、第10回「東アジア・フォーラム(EAF)」が開催(写真)された。EAFはASEAN+3各国の「産官学」の代表者が一堂に会する半官半民(トラック1.5)の国際会合である。ASEAN+3首脳会議の決定を受けて、2003年より毎年各国の持ち



回り主催で開催されている。

今回のEAFには、ASEAN+3諸国から94名が参加したが、日本からは、新美潤外務省アジア大洋州局参事官、石垣泰司当評議会副議長、篠崎友彦山九東南アジアホーディングス社長、笹谷能史外務省地域政策課課長補佐、菊池誉名当評議会事務局長代行の5名が出席した。



東アジア共同体評議会会報
2012年秋季号
(第9巻 第4号 通巻第33号)

発行日 2012年10月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 菊池 誉名

発行所 東アジア共同体評議会
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] ceac@ceac.jp(代表)
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.ceac.jp/